

斯く感覚を斯く

同じものを別のものに感じる、ちがうものを同じに感じる。

船川翔司



To feel each other, you use my physical, you feel yourself.

〈WEATHERING WITH HETERONOMY, 2022, 船川翔司 / LOLITA EPNERE, (感覚を探るための実践)〉

斯く感覚を斯くは、感覚することと感じたことを話すときに起こるズレ、そしてそのズレがもたらす副産物についての実践です。

これはある1日の天気を記述することから始めます。

「このような感覚はこのようである」と言うとき、感覚する - 明るさや熱、匂い、音、痒さ - 言い換えできないと思える感覚を「斯様(かよう)に」示すことを探り、感知する能力と意味を生成する能力を統合して、感覚に明確な名付けを試みてみましょう。

「斯く」:

斯くという言葉は副詞で「このような、そのような、かのような」と状態や事柄をそのまま示す意味があります。

動詞として斯くという言い方をすることはありませんが、言うなれば「そのようにする、このようにする」と言った意味として受け取ってみてください。

キーワード:

斯

感性術

気象

観測

リズム / シンコペーション

翻訳

ジャーナリング

出版

タイトル	斯く感覚を斯く
テーマ	同じものを別のものに感じる、ちがうものを同じに感じる。
提案者	船川翔司
時間	60 分～120 分（参加者の数によって変動します。）
参加要項	対象年齢はありません。 （人数は一人でも可能です。最大 15 名 参加者の数や性質によって共同性を検討する必要があり、実施時間もこれにより変動します。）
場所	屋内、屋外，オフサイト（オンライン）を問いません。 （屋内の静かな場所や、屋外の自然豊かな場所、都市空間の中を想定しています。事前の参加者へのアンケートによって具体的な場所を決めます。）
価格	Name your price（自由料金）
用意するもの	プリントした＜斯く感覚を斯くためのシート＞ ノートとペン（人によっては PC やモバイルフォン）

Time _____ Location _____ COORDINATES _____°N _____°E (Latitude) (Longitude)	＊ 冷たい熱と暖かい熱 体のどの部分でもいいので、二箇所^ニに2つのものを当ててください。 2つのものから熱を感じて、それがどんなに暖かいか冷たいかを感じてください。 ＊ 光っているもの 太陽や電球を直視することは危険です。 光源から反射しているものを探してそれを見てください。 ＊ 目を瞑った匂い 目を閉じて、匂うものを感じてください その匂いから遠くにあるものを思い出してください。	＊ 水のテイスティング いくつかの種類の水をコップに用意してください。 お腹を壊さないことを最優先して、 その味がどのように違うか感じてください。 ＊ 空耳とハミング 今いる場所で聞こえているものを聞いてください。 聞きながら、適当にハミングを歌ってください。
冷たい熱と暖かい熱 光っているもの 目を瞑った匂い 水のテイスティング 空耳とハミング		

シート__おもて (三折り)

0/140



シート__うら

添付しているシートに沿って①～③の手順で進めていきます。

- ① <ある1日の天気を思い出してください。>
ある特定の1日の天気を思い出してください。
今日の天気でも構いませんし、過去の天気であれば昨年の自身の誕生日や目に入った数字から適当な特定の1日を選びます。
明確な日にちが分からなくても、思い出深い日があればその日どんな天気だったかを思い出してみてください。
ニュースや自分で残したメモ、スマホに残っている写真や誰かからのメッセージ、治りかけのケガや近くの工事現場の様子からも
ある1日を思い浮かべてみてください。
そしてその日のことを簡単に(140字程度に文字数を限定してみましょう。)斯く感覚を斯くシートの記入欄に記述してください。
- ② <斯く感覚を斯くためのレシピをいくつか実行してください。>
斯く感覚を斯くシートの裏面に感覚すること実践するいくつかのレシピを掲載しました。
あくまで提案者の経験則によって感覚を斯くことを導くガイドとして提示しています。
これらのレシピの中からいくつか実行してみて、その時に感じたことをメモしてください。
- ③ <①で記述したものと②で感覚したことを元に斯く感覚を斯くシートを使用します。>
①での、ある1日の天気から、その1日に起きた出来事をよりくわしく感覚的なことを思い起こしてみます。
②のレシピを試した後に書き取ったメモを、ある1日の天気の感覚を斯くことへの補助的な役割として活用してみてください。
シートに印刷されているマークは外と内が一つになったイメージを表しています。
まず、このマークに沿った丸い輪っかを描いてください。
この丸い輪っかはビーズの輪っかのような役割をします。
描いた輪っかの周りに、ある一日の天気を思い出すプロセスで思い起こせる感覚をその感覚が思い出せる言葉で、ひとことあるいは記号に置き換えて配置してください。
いくつかの感覚の言葉や記号は輪っかのまわりに置かれて、ビーズのような形を連想するかもしれませんが。
かき終わったシートを眺めて、再度ある1日の天気を思い返して、よりその1日を思い起こす事ができるか確認してみましょう。
ここで確認できる事は、「そのように感じることをそのようにすること」の痕跡と捉える事もできるでしょう。

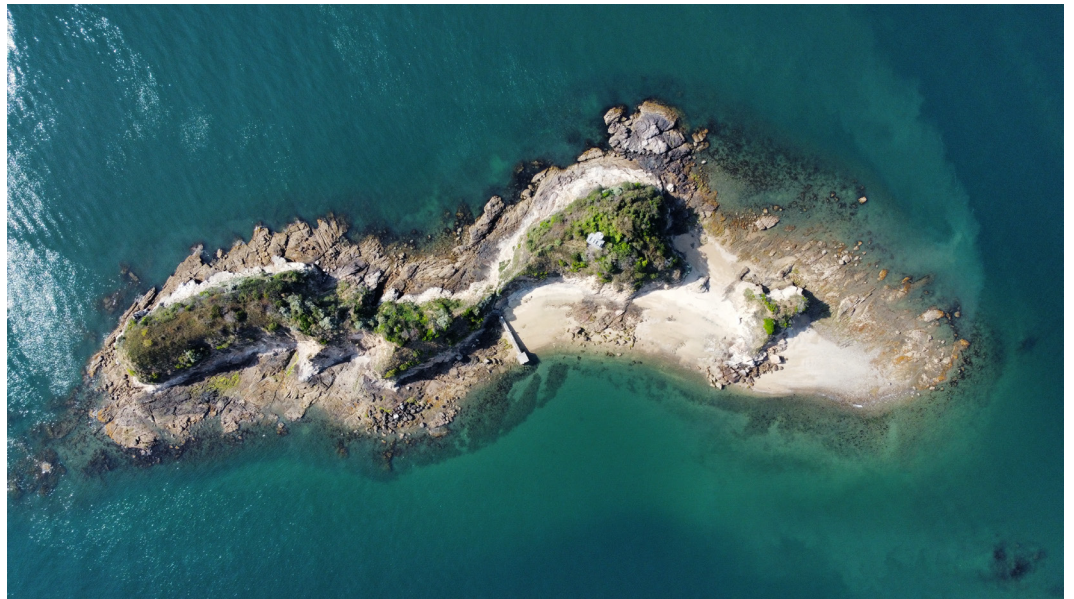
次にこの斯く感覚を斯くについての詳細な解説とその背景を紹介します。

斯く感覚を斯くを実践する時にプロセスを複雑に思う際の補助になることを期待します。

背景

この斯く感覚を斯くは、船川の経験に基づいて提案をしています。

私はライフワークとして 2016 年から小さな島に行って過ごすということをしています。



(二面島全景, 撮影: 船川翔司)

小さな島は一周をぐるっと歩いて回ると 30 分ほどで回れる島です。

私はそこで寝起きするまでに必ずしていることがあります。

まず島には満潮と干潮があり、それによって行動が規制されます。

干潮の時には、砂浜、岩場、小さな洞窟、石や砂利のある浜、崖をぐるっと回れます。

波によってたくさんの漂流物が日々運ばれてくるのでそれらを収集します。

満潮の時には干潮の時に歩ける島の沿岸を回ることはできず、島は崖と砂浜と波と一つの岩にしかアクセスできません。大抵の時間は岩の上でじっとしています。



(二面島満潮, 撮影: 船川翔司)



(二面島干潮, 撮影: 船川翔司)

島にいと何もすることはありせん、島ではインターネットや読書などメディアを介して情報を得ることはしないので、波をずっとみたり、風が吹いてくる方向を眺めたり、遠く鳴る汽船に耳を傾けるだけです。

漂流物を拾う事でなにかしらの与えられた言葉や情報に触れ合うことになります。崩れた発泡スチロールや爛れたプラスチック、削られた木などが最も多い漂流物です。

島で過ごしていると、陽の光の眩しさや魚の腐敗臭や波の音、遠くから鳴っている音に常に意識があります。

その意識下の中で漂流物を拾うと、それが与えられたままの名前として自分が認識している事がとても不思議に思えてきます。

崩れた発泡スチロールは、粒の間に砂が混ざった白い塊。
爛れたプラスチックは、半透明の筒状になったギザギザしたもの。
削られた木は、黒く曲がった長くて硬い、土が湿った匂いのもの。

と言い換えないと納得がいかなってきます。

ここで起きていることは、私が普段都市の環境の中で名付けられたものに対して、その名前をその通りに受け取り、それを扱っていることと別の経験則によって過ごしているということに気づきました。

そこにあるものから感じたことにたいして、その都度名前を付け直して、感じていることに見合うように感覚したものを認識していることに、この小さな島のような極端な環境の中で経験することに興奮して、ずっとこの島に通っています。

斯く感覚を斯くの副題に [同じものを別のものに感じる、ちがうものを同じに感じる。]

と言う言葉を添えています。

これは、名付けられたものの中で違いを感じているものが、環境の違いの中で別の種類のものでも感覚的にみてみれば違うと思っていたものが同じように感じる経験が小さな島で過ごすことでよく起きます。

斯く感覚を斯くで提案していることの中で、私の島での経験のこの話が、ある天気の日を思い出す際、感覚的に辿ってみるときに、役立つかもしれません。

解説

ここでは実際に提案者の私が斯く感覚を斯くを実践している様子を紹介します。

①シートにある1日を簡単に記載しようと思います。

5オのーう。熊本県八代市夏で少し涼しい台風の日0/140

ここでは幼少時代の台風の1日を思い出しました。
九州にいたので、台風は慣れ親しんだ出来事でした。
この日を思い出して、台風という天気の1日を簡単に心にとどめていこうと思います。

②の斯く感覚を斯くのレシピを開いて指示に従ってみようと思います。

Time 2025.7.19 Location 大坂中津市 COORDINATES (135.42) (34.58)	＊ 冷たい熱と暖かい熱 体のどの部分でもいいので、二箇所2つのものを当ててください。 2つのものから熱を感じて、それがどんなに暖かいかわかると冷たいかを感じてください。 ＊ 光っているもの 太陽や電球を直接することは危険です。 光源から反射しているものを探してそれを見てください。 ＊ 目を瞑った匂い 目を閉じて、匂うものを感じてください その匂いから遠くにあるものを思い出してください。	＊ 水のテイスティング いくつかの種類の水をコップに用意してください。 お腹を壊さないことを最優先して、 その味がどのように違うかを感じてください。 ＊ 空耳とハミング 今いる場所で聞こえているものを聞いてください。 聞きながら、適当にハミングを歌ってください。
冷たい熱と暖かい熱 光っているもの 目を瞑った匂い 水のテイスティング 空耳とハミング		

冷たい熱と暖かい熱：茶碗と石を両手に握りました。今いる環境では茶碗の方が少し冷たく、石の方に少し温かみを感じます。

光っているもの：本屋さんに行った時に窓ガラスから陽の光が射して、エスカレーターの手すりに反射していて、光がゆらゆらと揺れていました。

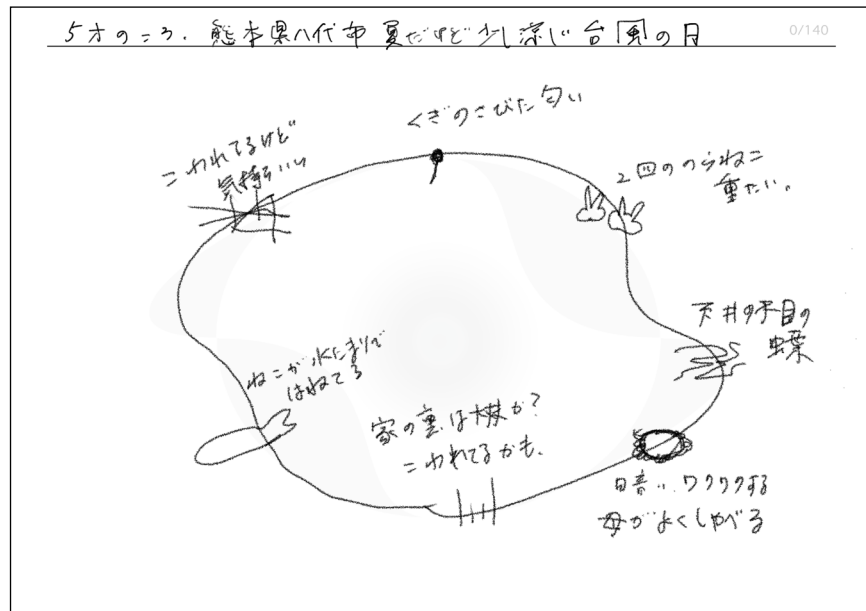
目を瞑った匂い：家のベランダから湿った匂いがします。去年訪れた長野県の湿地帯の赤い実がなった木を思い出します。

水のテイスティング：水道水と、いつも使っているやかんで沸かした水をのみました。

空耳とハミング：部屋で扇風機を3つ回しているので、その扇風機の音からいくつかの音の波を拾って、口づさめるものを口づさみました。

ここでは自分の感じ方を覚える練習が少しできるかなと思います。

③でシートに戻って、シートの薄くプリントされた形の輪郭をペンでなぞって輪っかにします。
その輪っかに沿って、ある1日で感じた感覚を並べていきます。



【私のある1日の天気は台風が自分の家に来た前日の夜から始まりました。
台風がくるということで、母と兄と一緒に家の窓を木の板や段ボールで塞ぎました。
初めてトンカチと釘を握った時の釘の匂いが鼻に染みしました。
ほとんど飼っているに近い2匹の野良猫が心配になったので、野良猫を兄と探して家まで運びました。とても重かった。
台風の風で家が揺れて寝れなかったので、部屋の天井の木目を眺めていました。
木目が蝶に見えたり、誰かの顔に見えたりして怖かった。
家族みんな寝れなかったので、母が興奮していたのか、よく喋る声が聞こえました。それを聞きながら、前日まで兄や近所の友人達と藁で作った遊び場が吹き飛んでなくなっていないか心配でした。
気づけば朝で、窓を開けると猫が飛び出して、水たまりを跳び、水の粒の光が綺麗でした。
家の裏にいくと、心配した通り、藁の遊び場は吹き飛んでいました。それは悲しくはなくて清々しい気持ちになりました。】

ここでは抽象的にですが、ある1日の天気の中で起きた感覚を一言で述べて並べています。
その一言やマークを書き終えた後に私はその1日の感覚が呼び起こされます。

あと書き

斯く感覚を斯くは感覚についての実践です。

感覚を斯くことに慣れ親しんでもらうことを第一の目的にしています。

私がこれを私以外の人たちに伝える時に思うことがあります。

①のある1日の天気を思い出すことについて：

日本では天気の情報を経験データとして数に置き換えることは江戸末期から始まりました。それまでの天気をつぶさに調べるには、藩主の側近の日記に書かれている天気の記述や地誌に残る記述くらいしか過去の天気を遡ることはできなかったようで、それらに記述された一つ一つの記述が色んな場所に残っていることで、当時の気象情報を広域にもわかるようになっているようです。

ここでの実践で残る言葉たちは数値に置き換える事ができるような気象情報とは別様に活用できる可能性もあります。

②の斯く感覚を斯くのレシピはこの実践を多くの人と共有することで、まだまだ開発ができると思います。この実践自体はいつでもどこでも簡単にできるので、レシピの開発に時間をかけることもできるでしょう。

③の実践を行う過程でそれぞれの実践者がその感覚を説明する時、斯く感覚を斯くということは、感じたことをそのまま残すことがとても難しいという気づきを得る機会でもあります。時に感覚を斯くために便宜的に振る舞うこともあるかと思います。そこでは書くことに関する経験も同時に残るかと思います。

斯く感覚を斯くにおける実践は感覚についてを探究することを目的としていますが、その道筋と結果には副産的に発生する意味がバラバラに立ち現れると思います。

私の夢は、斯く感覚を斯くことを何度も参加者の方達と繰り返して、感覚のレシピの開発と斯く感覚を斯くを便宜的に述べることをまとめた出版物を作ることです。

実際のワークショップを行う際は、ここで述べたこと以外にも感覚についてお話ができればと思います。ぜひご参加ください。読んでいただきありがとうございます。

斯く感覚を斯くにおけるポリシー

私たちは皆、さまざまなバックグラウンドを持っており、実践とコラボレーションのための安全でオープンな環境を作りたいと考えているため、参加者および提案者としてお互いに交流を深めるための行動規範を共有したいと考えました。

行動規範

私たちはお互いに話し合いながら、次のことを行っています。

オープンで自由

判断を保留する

お互いのアイデアを基に正直な意見やリスクのあるアイデアを共有することを恐れない

頻繁に共有しながらも、他の人の共有する時間も尊重する

常にお互いに助け合って最高の時間を作り出そうとしている

私たちは以下の行為を容認しません：

性差別、人種差別、同性愛嫌悪、トランスフォビア、障害者差別、宗教差別、

またはその他の差別行為

あらゆる形態の暴力

歓迎されない身体的接触や敵対的な注目

意図的な脅迫またはストーカー行為

上記のいずれかの行為を主張したり奨励したりすること

私たちは、次のことを行います。

明確かつ簡潔にコミュニケーションする

プロセスのどこにいるのかを説明する

自分のことを自虐的に言わない

他の人が話す余地を十分に残す

他の人にフィードバックを提供するときは、次のことを行います。

初め...

事実を述べる

見たものを説明する

聞いたことを説明する

後...

あなたがどう感じているか説明してください

関連性を共有する...